

インターンシップ事前教育での読書活動導入について

—名古屋経営短期大学における取り組み事例報告—

An Empirical Study of Introducing "Reading Activity" as Education

—The Case of the 2014 Internship program at Nagoya Management Junior College—

大仲 聡子 山本 芳功 島宗 俊郎
Satoko Onaka Yoshinori Yamamoto Toshiro Shimamune

〈摘要〉

大学教育の質的転換を図る上で、インターンシップの充実が求められている。本稿は、豊かな幅広い教養そして人間性を兼ね備えた学生を育成することを目的として読書活動をインターンシップ事前教育に導入した。そこでみてきた大学図書館の利用、読書、就業意識等に与える効果、今後の課題等について考察する。

〈キーワード〉 図書館 キャリア教育 インターンシップ 事前教育
読書活動

I. はじめに

インターンシップの質的向上を図りつつ、その教養的側面を充実するため、事前教育として経験知を吸収できる読書を導入すると効果的であると考え。より教育的効果の高いインターンシップ事前教育のために、インターンシップ先関連図書そして就業意識向上を目的とする図書を積極的に大学図書館へ提案し、大学図書館とともに蔵書構築していく必要がある。学生の就学から就業への移行を効果的に大学の教職員が支援するためには、キャリア教育とインターンシップに関する定期的な評価とそれを踏まえた継続的な改善並びに大学図書館の蔵書構築が望ましい。

学生は様々な苦勞、成功、失敗を経験することにより、その後の学生生活において大きな効果が期待できる。現実的には、学生は社会人として未熟なままインターンシップに行くことを余儀なくされるため、本学では事前教育として、ビジネスマナーや電話応対等を画一的に行ってきた。しかし学生は希望業種でのわずか5日間の実体験に翻弄され、質的充実が得られず、単なる就業体験で終わってしまっていた。

本学の平成26年度後期インターンシップでは、インターンシップをより効果的で充実

した内容にするために、単に画一的なビジネスマナーを習得させるばかりではなく、業界研究・企業研究そして社会人基礎力の向上を不可欠と考え、事前教育に読書活動を導入した。キャリア教育とインターンシップをより充実するためには、読書そして大学図書館の利活用を推進・促進すべきであると考ええる。

II. 本稿の目的

赤堀・増野（2015）「キャリア教育としての読書活動の可能性」では、自分の将来を考える上で役立つという意見が多かった。赤堀・増野の研究では、読書活動の導入は、インターンシップ参加につながらないと報告されている。しかし本学での取り組み事例からは、読書活動が学生の就業意識向上に一定の効果があると考えられる。本稿では、こうした取り組み実践について報告する。

本学における大学図書館の利活用、そして授業との関連性の高い図書を図書館蔵書として構築し、インターンシップ事前教育に導入することにより、豊かな幅広い教養そして人間性を兼ね備えた学生の育成が可能となると考える。本学の取り組みは、読書により疑似的体験としての経験知の吸収（実体験以上に経験知をもって臨むこと）、専門分野の知識・技術の深化、職業観や就業意識の構築を可能にすることを目的とした試みである。

III. 本学の大学図書館

1. 利用状況・背景

昨今、深刻化する活字離れ・読書離れそして図書館離れが危惧されている。この状況を踏まえ、本学と近隣大学の大学図書館利用状況統計について比較検証した。本学は近隣大学との学生数、蔵書数等の規模の違いはあるが、入館者数、貸出冊数の利用率は低い（表1）。この低利用の背景は、単に本学図書館が学生の日常的動線上に設置されていないばかりではない。本学図書館においては、利用ガイダンスやデータベース講習会などが開催されない。学生が情報・資料収集・検索方法を知る機会が設けられていないことは、本学図書館が授業において有効に活用されないことにつながる。また定期的な図書館独自のイベント（読書会や講演会など）が開催されていないのも学生の利用につながらない。

表1：平成26年度図書館利用状況統計¹

大学名（図書館名）	入館者数（一日平均）	貸出冊数（一日平均）
名古屋大学（中央図書館）	685,747人（1,971人）	159,574冊（459冊）
愛知県立大学（長久手キャンパス図書館）	186,067人（838人）	74,733冊（337冊）
名古屋産業大学・名古屋経営短期大学 図書館	25,340人（90人）	2,215冊（7冊）

2. 蔵書構成

本学図書館の蔵書構成は、教員研究費での図書購入や科研費（直接経費）による図書の寄託が乏しく、専門図書、専門分野への導入図書、教養教育図書の蔵書率が低く、実用実務図書、娯楽一般図書に偏重している。

高等教育機関における大学図書館そして教育の重要な役割は、単に実用実務、資格取得支援を目的とすることではない。学生が知の宝庫である図書館から自ら足りないものを補い、その発想により思考力が一層養われることで、未来を切り拓いていく力になる。

大学図書館の資料収集という蔵書構築理念はもとより、図書館の利活用という観点からは、授業との関連で学生が読みたいと思える図書資料の収集並びに環境整備に努める必要がある。

IV. 本学のキャリア教育概要

本学ビジネス系学科のキャリア教育支援体制として、1年次に実践キャリア教育Ⅰ・Ⅱ、2年次に実践キャリア教育Ⅲを必修科目、ビジネスインターンシップⅠ・Ⅱ、ビジネスマナー基礎Ⅰ・Ⅱ、経済学入門、マネジメント概論等を選択科目として開講している。また検定・資格取得支援としては、医療事務・簿記・秘書・観光関連の検定など就職に役立つ教育課程を選択科目としている。学生への検定・資格取得を促すため、教職員による指導、受講相談を推奨している。

検定・資格取得は、キャリア教育において実践的な効果が期待できる。しかし教養教育、リベラルアーツ教育の底上げとしての読書、そして図書館利活用は重要であると考える。

V. 本学のビジネスインターンシップⅡについて

1. 考察の対象

以下の考察の対象は、平成26年度後期 本学ビジネス系学科生の一年次ビジネスインターンシップⅡを履修した学生である。平成26年度入学の同学科生36名のうち、17名（内留学生2名含む）である。

2. 本学のビジネスインターンシップ概要

一年次のビジネスインターンシップⅠ（前期）では、担当教職員による事前教育講義を9時間、ビジネスインターンシップⅡ（後期）では、事前教育においてさらに読書指導、グループワーク、プレゼンテーションを20時間行った。従来の事前教育では学生に対し、画一的なビジネスマナーや電話応対等をおこなってきたが、現状が不十分なため、本事前教育では、実社会での面接対策等に重点をおいた指導として、キャリア支援課担当職員による履歴書作成・各種マナー指導等の個別対応も随時行った。学生は、約5日間・約40時間の企業・法人・団体でのインターンシップを行い、研修日誌・報告書を作成し、イン

ターンシップ受入先からの評価書で自らを振り返ることになる。さらにインターンシップ報告会を行うことにより、低学年より就業意欲の向上が可能となる。

VI. インターンシップ事前教育での読書活動導入

インターンシップ事前教育は、読書活動を導入し、学生の学習意欲・就業意識の喚起を促すとともに、社会人基礎力や基礎的・汎用的能力などの社会人として必要な能力を有する人材育成を目的とする実施内容とした。

1. 社会人基礎力 12 能力要素

学校教育法第 30 条第 2 項に基づく学力の 3 要素のなかのひとつで、社会で自立して活動していくために必要な力という観点、そして経済産業省のいう「社会人基礎力」を育成のため、インターンシップにおける事前教育に読書活動を導入した。社会人基礎力とは「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」である。図 1 のとおり 3 つの能力、12 の能力要素から社会人基礎力として構成されている。

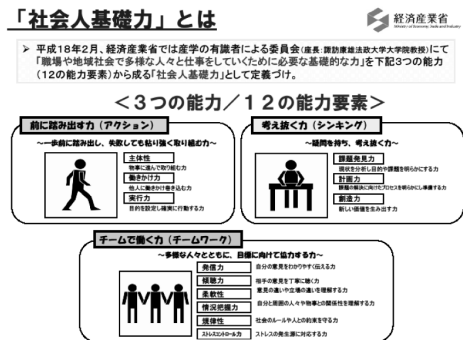


図 1：社会人基礎力の能力要素
出所：「経済産業省社会人基礎力」HP²⁾

2. インターンシップ事前教育としての読書活動の実施内容とその教育的効果

図書を「選ぶ」そして「読む」「書く」「聞く」「話す」の学習 4 技能バランスを意識した 5 つの読書活動をインターンシップ事前学習の教育プログラムとして企画・導入した。インターンシップ・就業に関する図書の選書を行い、読書前の選書における想像力の中でのプレゼンテーション、そして精読し、書評・読書感想を書き、読了後のプレゼンテーションやグループワークを実施した。

(1) 選書

インターンシップ事前教育では、大学図書館において、図書の配列、説明、貸出返却手順等の簡単な図書館利用ガイダンスを行った。インターンシップ受入先の職業・業種に見合った内容の図書選定には、司書資格をもつ職員が適宜アドバイスをを行った。インターンシップ事前教育では、選書を通じ、学生の主体性・課題発見力・計画力・創造力の育成を期待した。

(2) 読書

学生は自ら選んだ図書を読むことにより、主体的に学ぶ力、情報そして知識・技能を習得する意識が高まり、読解力はもとより、思考力、創造力等の能力を磨くことができる。

読書中は授業外であってもインターンシップや職業意識に関心を抱かせることができ、また学生は、読了後の講義をより充実した内容で自ら再構成することを可能にする。

(3) 書く

読書による情報収集や疑似体験を行うことで、図書内容をより深く理解して書評や読書感想を書くことができる。また図書からの情報により語彙力・表現力を高める効果もある。

(4) プレゼンテーション（聞く・話す）

学生は、図書を媒介とした交流、発言や発表する機会により、話す姿勢、度胸、心構えなどを鍛えることができる。インターンシップ事前教育では、図書を用いたプレゼンテーション一人約5分で2回行った。読書前の選書における想像の中でのプレゼンテーションと、読了後のプレゼンテーションである。これは自分の意見をわかりやすく伝える発信力、相手の意見を丁寧に聴く力、そして自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する状況把握力を鍛えるためである。各プレゼンテーションの前にはグループワークをとり入れ、学生同士が情報交換を促す教育プログラムとした。グループワークで学生は、互いに活発な図書紹介や意見交換を行った。これにより、意見の違いや立場の違いを理解する柔軟性が育まれ、社会ルールや人との約束を守る規律性が発達したと考える。

3. ストレスコントロール力と読書

読書は日常生活においてストレスをコントロールするには最も有効な手段である。イギリスのサセックスにある大学で、心拍数などから読書・音楽視聴・1杯のコーヒータ임・テレビゲーム・散歩それぞれのストレス解消効果を調べたところ、読書は68%・音楽視聴は61%・コーヒータ임は54%・散歩は42%・テレビゲームは21%ストレス解消効果が現れた。その研究によると、静かなところで読書を行えば、わずか6分間で60%以上のストレス解消効果を得られる。社会人基礎力向上の能力要素のひとつであるストレスコントロール力は、読書習慣をつけることによって向上することができる³。

4. 新聞活用

近年、学生の活字離れによる読書離れとともに新聞離れも危惧されている。新聞は政治、経済、医療、スポーツ、芸能情報など最新の幅広い出来事が掲載され、その一覧性の高さはメディアとしては大きな魅力である。また社説、コラム、読者投稿や人生相談等では、様々な意見や考え方に触れられ、リアルな心情とともに時代の流れや社会の情勢を感じることができる。新聞を活用することは、社会を幅広く見渡せるようになり、一般常識を養うことになる。インターンシップ事前教育では、就職試験の時事問題・一般教養対策にもつながることから、新聞活用を読書活動の一環として奨励した。また新聞から社会の出来事に対する興味、自ら必要と思える記事や見出しをピックアップする習慣付けも推奨した。

VII. 読書活動

1. 選書活動

平成 26 年 12 月 18 日（木）4 限目に本学図書館において選書活動を行った。

選書リスト（表 2）をインターンシップ受講者のフィールドごとに作成した。本学の未来キャリア学科とは、医療事務、ビジネス情報、観光・英語、美容・癒し、健康スポーツの 5 つに分かれている。学生は各分野で実践的な学びと資格取得を目指している。

学生はインターンシップ先を意識した図書を選ぶことで、就業意識を高めることが可能となる。これは学生自身の主体性・課題発見力・計画力・創造力の育成となる。自身での選書が困難な学生へは、教職員による業種別図書や一般小説の紹介・アドバイスをを行った。また留学生においては、日本語絵本や児童図書を選ぶことで読書の負荷軽減を行った。

2. 第 1 回プレゼンテーション

平成 26 年 12 月 18 日（木）4 限目の選書後に教室にもどり、グループワークで選書理由の情報交換を 10 分程行った後、図書を用いたプレゼンテーション一人約 5 分を行った。読書前であるため、この段階では学生の想像力の中でのプレゼンテーションとなる。学生

表 2:「選書リスト（複数選書あり）」

フィールド	受講者数	書名 / 著者名
医療事務	4	「まどろみの海へ」堀江誠二 「神様のカルテ」夏川草介 「筆談ホステス」斉藤里恵 「わが子は発達障害」内山登紀夫 他
ビジネス情報	4	「ワークショップ大学生活の心理学」藤本忠明 「ANA の口ぐせ」ANA ビジネスソリューション 「翼がくれた心が熱くなる本」志賀内泰弘 「自己の表現」安西祐一郎 「本の歴史」ブリュノ・ブラセル
観光・英語	8	「星の王子様」アントワヌ・ド・サン＝テグジュペリ 「リッツカールトンが大切にしているサービスを超越する瞬間」高野登 「ホテル業界大研究」中村正人 「9 割がバイトでも最高の感動が生まれたディズニーのホスピタリティ」 福島文太郎 「観光地の賞味期限」古池嘉和 「ディズニーそうじの神様が教えてくれたこと」鎌田洋 「リスボンへの夜行列車」パスカル・メルシエ 「リッツカールトン超一流サービスの教科書」レオナルド・インギレアー 「おおきな木」シェル・シルヴァスタイン（留学生による選書） 「魔女の宅急便」角野栄子（留学生による選書）
健康・スポーツ	1	「プロスポーツ経営の実務」大坪正則

は他の学生の前で自身が選んだ図書を公開することで、読書意識が向上したと考える。

3. 読書

学生は主に冬季休業期間に読書を行った。この時期における読書活動の導入は、学生が授業外に読書することにより、インターンシップへの参加意識、就業意識の保持ができると考えたからである。

4. 第2回プレゼンテーション

平成27年1月8日(木)4限目は、読了後のプレゼンテーションである。自分の意見をわかりやすく伝える発言は発信力となる。プレゼンテーションの前にはグループワークを15分程とり入れ、情報交換を促し、意見を交わし内容を深めたことで、さらに充実した発表を行うことができた。

5. 読書感想文

読書感想文は、文字数に制限を設けず冬季休業期間に作成させた。インターンシップでは研修日誌や報告書作成が必須である。そのためインターンシップ事前学習の課題として読書感想文を書くことは、学生の表現力、創造性、課題解決力などを高め、就業の意識付けを深め、さらに企画力を養う効果を期待した。

VIII. 結果

平成27年3月にインターンシップ読書アンケートを回収した。受講者17名中、11名から回答を得た。(回収率64.7%)

1. 読書を導入した授業は他の授業と比較してどのような印象であったか

とても楽しかった	4	楽しかった	6	どちらでもない	1
----------	---	-------	---	---------	---

90%の学生から、楽しかった、とても楽しかったという印象を得た授業であった。

2. 選書、読書、感想文、読書プレゼンはインターンシップに役に立ちましたか？

すごく役に立った	3	役に立った	3	どちらでもない	5
----------	---	-------	---	---------	---

54.5%の学生から、すごく役に立った、役に立ったという回答を得られた。

3. ほかの学生の図書プレゼンについて

すごく役に立った	1	役に立った	4	どちらでもない	6
----------	---	-------	---	---------	---

45.5%の学生がすごく役に立った、役に立ったという回答を得た。

自らの発表順番があり、緊張が伴い、傾聴という点においては気持ちが低かった。

4. 選書リストについて

すごく役に立った	3	役に立った	4	どちらでもない	4
----------	---	-------	---	---------	---

63.6%の学生がすごく役に立った、役に立ったという回答であった。これは読書活動を導入したインターンシップ事前学習後の読書がなされていない学生は、どちらでもないという回答と合致している。

5. 読書感想文を書くことについて

楽しかった	5	難しかった	5	未回答	1
-------	---	-------	---	-----	---

未回答があるものの、楽しかったと難しかったという回答で二分化された。

6. 読書について

大好き	3	好きなほう	4	わからない	1
-----	---	-------	---	-------	---

7. 読書に対する意識変化

大好きになった	1	好きになった	3	かわらない	7
---------	---	--------	---	-------	---

読書嫌いな学生も存在したが、本アンケートから大好き・好きになったという学生がいたことは、読書導入が有効であったといえる。

8. 感想文と図書の理解関係

深まった	5	まあ深まった	4	未回答	1
------	---	--------	---	-----	---

すごく深まったという学生はいなかったが、81%の学生が深まった、まあ深まったと回答していることから、読書をして書くことは図書内容の理解につながると学生も自ら判断しているといえる。

9. 今回の読了後、図書館（大学）を利用しましたか？

利用した	5	利用していない	4	利用したい	2
------	---	---------	---	-------	---

元来、大学図書館を利用したことがない学生ばかりであった。読了後、大学図書館を利用した学生が45%という割合はかなり高利用率と考える。今後、図書館を利用したいと考える学生をいかに読書・図書館利活用に引き込むかが課題である。

10. 今回の読了後、大学図書館の図書を読みましたか。

読んだ	4	読んでいない	7
-----	---	--------	---

11. 今回の読了後、図書館蔵書以外の図書を読みましたか。

読んだ	6	読んでいない	5
-----	---	--------	---

大学図書館を利用したが、貸出には至らなかったという結果も判明した。また読書をしていないのは、忙しい、時間がない、読もうと思った本がない、という理由である。

12. 学生自由記述より抜粋

- ・他の人が選書した中に読んでみたい・おもしろそうと思う本が知れたことがよかった。
- ・読書をする機会がなかったけれど、今回の授業で本を選ぶ楽しさやいろいろな本があるということがわかった。本を読むときの集中力も身についた。
- ・本を読む機会があまりないので、久しぶりに読めてよかった。自分の気になる本だったので、集中して読めました。
- ・普段あまり本を読む機会がないので、読む機会ができてよかったです。本を読むことで集中力が身に付き、仕事について考えることができました。感想を人前で話すことで表現力も身に付けることが出来ると思いました。
- ・いろいろな本にめぐりあうことが出来た。
- ・本を読みたいと思っても、選書できず読む機会が持てなかったのですが、図書館の本を読み、やはり読書は良いと思いました。もう少し本を読むようにしたいです。
- ・普段あまり読むことのないようなエッセイや体験が書かれている本が読めたのでよかったです。これを機会に物語だけでなく、いろんなジャンルの本を読んできたくなりました。
- ・本を読むことによって文の構成等の文章力が鍛えられて、レポート等の課題の時にその成果が発揮されました。
- ・今まで読んだことのない「企業」についての本を選んで読んでいました。今までは物語の本ばかり選んで読んでいたので、全部読み切れるか不安でしたが、意外とためになることばかりで楽しく読むことができました。
- ・選書のプレゼンを行い、筆者の表現力が読者の心を動かす原動力になることがよかった。自ら好んでいる物語や知識、常識などを読み、どのように学びどのように感じたかを示すことがよかった。
- ・普段、本を読まないで改めて読んでみて、新たな言葉や発見が出来てよかったです。これから本をたくさん読もうと思いました。



写真1：第2回プレゼンテーションの様子1



写真2：第2回プレゼンテーションの様子2

IX. 考察

1. 学生アンケート集計

学生からは読書導入についての否定的な意見は見当たらず、概ね新たな取り組みとして好印象であった。読書により発見や興味、そしてさまざまな意識・行動への変化が見られた。読書思考の変化、プレゼンテーションでの自信、読了の達成感・満足感、文章作成の集中力の向上が授業外にも生かされたことがわかった。このアンケート集計により読書指導が、他の授業でのレポート作成等においても効果があったという結果を得ることができた。

2. 今後の課題

平成13年に「子どもの読書活動の推進に関する法律」が制定された。この法律で読書は、「子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものである」としている。しかし学生は、受験や学校行事、部活・課題に時間を費やす等で読書習慣の中断を余儀なくされている。また選書自由度のない夏・冬休みの課題図書強制は、図書・読書離れをより一層深刻化させる一要因になりかねない。

インターンシップ事前学習での履歴書作成の指導を通じ、語彙不足や稚拙な文章から抜け出せない学生が多く、国語教育というよりも日常の読書からの語彙力、文章力、表現力を身に付ける必要性を切実に感じた。インターンシップを授業に採り入れていることは、学生が何を目標したいかという目的を定め、進める方向は学生の意思を尊重し、実現させる教育である。インターンシップは短期ではあるが、即実践的に学生が目標したいことを叶えられる機会である。インターンシップ事前教育での読書活動導入により、授業・インターンシップ中のみならず、読書中は、夢や希望、進路志望を再認識させることにもなり、

そこから将来像を描きやすくなる。

事前教育としてのインターンシップに関する読書をきっかけに、自発的な読書の習慣づけが形成できればと考える。読書により自らの将来を熟考する時間を確保し、学生個人の個を磨き、人格形成に役立ててもらいたい。検定資格取得や体系化した知識を理解し学修するばかりでなく、読書を通じ経験知を吸収する能力を身に付けることで、真の教養を培い、就業後も成長し続けられる人材の育成につながるであろう。

教養教育主義と実務実学主義の相剋する教育として、体験型学習であるインターンシップにおいて、読書活動が事前教育効果として熟成していくかを検討し、教育プログラムを運用する際の課題を把握する必要がある。また社会人基礎力におけるストレスの発生源に対応する力というストレスコントロール力については、継続的な読書によりストレスコントロール力を養いつつ、経過観察が必要である。学生が学ぶ喜び、勤労する喜びを知り、生きていく力を自ら見出すことができる大学図書館、大学教育環境の整備に努める必要がある。

注

- 1 名古屋大学（2014）平成 26 年度名古屋大学附属図書館（中央図書館分）統計
愛知県立大学（2014）平成 26 年度愛知県立大学学術研究情報センター長久手キャンパス図書館事業報告
名古屋産業大学・名古屋経営短期大学（2014）平成 26 年度名古屋産業大学・名古屋経営短期大学図書館利用統計
- 2 http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/_image.pdf 2015.10.14 最終閲覧
- 3 「Telegraph Reading "can help reduce stress"」
<http://www.telegraph.co.uk/news/health/news/5070874/Reading-can-help-reduce-stress.html>
2015.10.03 最終閲覧

参考資料・参考文献

- ・経済産業省（2006）「社会人基礎力に関する研究会『中間取りまとめ』報告書（概要版）」
- ・経済産業省（2006）社会人基礎力
<http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/> 2015.10.14 最終閲覧
- ・赤堀方哉 増野浩子（2015）「キャリア教育としての読書活動の可能性」梅光学院大学論集 48
- ・共同図書環事務局（2011）「平成 20 年度文部科学省戦略的・大学連携支援事業 事業報告 共同図書環（館）のネットワークシステムの構築と新たな教養教育プログラムの開発 2008-2011」
- ・共同図書環事業（2014）「共同図書環事業報告書 2011-2013」